

令和2年度第2回結城市商業観光振興計画推進委員会議事録

日時 令和3年3月4日(木)17:00~18:30
場所 市役所4階 大会議室2、3
出席者 小笠原委員長、飯島副委員長、大嶋委員、齋藤委員、柴委員、秋葉委員、
外山委員、稲葉委員、保坂委員、野口委員、石島委員、登坂委員、飯野委員
大橋委員
事務局 飯島部長、河添課長、鈴木係長、宮田係長

会議要旨

1 開会

2 委員長あいさつ

3 議事

議事(1)計画の数値目標の修正について

⇒承認される。

議事(2)実施事業の検証について

⇒検証方法の設定、検証結果ともに承認される。

委員長総括(小笠原委員長):この1年はコロナの状況で大変だった。今年度、結城市の総合計画に携わらせていただき思ったことだが、そろそろ市役所が頑張っ変えていくことが難しくなっていることを痛感している。商業観光でも全く同じである。例えば観光客数を増やしていく、これについても市役所ができる部分は限られている。「基本目標2 観光向け店舗・施設の倍増を目指そう」は市役所独自では難しい話になる。例えば観光単独の企業を立てるのが難しいのであれば、月曜から金曜まで全く別の仕事をしている会社が、土日に観光向けのサービスを始めるなどの発想が待たれる。世の中で副業が議論されているので、それぐらい突飛な考えを持たないと、おそらくこういった話は実現が難しくなってくる。観光企業を増やすだけではなくて、どうやって地域の食い扶持を増やしていくのか、そういったことを考えるのも必要と拝見していた。「基本目標3 観光客の滞在時間(単価)の倍増を目指そう」も全く一緒に、市役所が貢献できるのはせいぜい半分程度、その他の部分は観光事業をやって、どうやって地元で収益を上げていくのか。例えば「事業例 12 事業者に対する休業日の見学協力の要請」とあるが、工場とか様々な仕事の現場をお見せするのに、無料でやるんですかと。それとも参加する方々からわずかでも見学料か参加料を頂戴するのか。今までだと観光だから全部来てもらって無料でみてもらおうだったが、そろそろ民間事業者が入ってくるときに、それぐらいの発想の転換を考えてもよいのかなと思った。それによって今ある事業者、他業種の事業者が新しい食い扶持を得ている。今自分たちのやっている仕事のド

メインがどんどん縮小していく、だとするならば観光業種に例えば週1回、土曜日に出社する社員を確保して、そこできちんと収益を得ていく。そういう発想を持つのが一つ大事なかなと思っていつもみていた。そしてこれが一番大事なのは「基本目標4 観光客の受け皿の倍増を目指そう」であります。タイの観光客を呼ぶのは、大変だと思います。来年の今頃、おそらくこの話がどっと盛り返しているはずです。先進国ですと遅くとも今年中、来年度中にはワクチン接種が行きわたるだろうと、そうすると今まで観光ですとか近隣への交流に及び腰だった外国人の皆さんが一斉に動き始める。WHO がいっている、コロナウイルスについては、撲滅はできないが地域に残る一流行病になっていこうと、いう話が出てきている。その点では我々もコロナウイルスと付き合いながら、どうやって今までの部分の内容を取り戻していくのか。その時に早ければ来年の今頃には「じゃ、どうしようか。もうお客さん、来始めていますよ。」という状況ができてもおかしくないということになる。そうすると、この辺りについて、今の時点で次年度どうする、きっちりご理解いただいた上で、結城市として取り組んでいく必要があるかなと考えていただきたい。これらのことを踏まえて皆様からご意見をいただければと思います。

議事(3)令和3年度実施予定事業の報告について

⇒特に質問なく承認される。

議事(4)令和4年度実施事業の協議について

⇒特段の要望は出されなかったものの、議事(5)意見交換において、展望等の意見が交わされることとなった。

議事(5)意見交換

大橋委員：ネクストゆうきの大橋です。アフターコロナ、冒頭に先生からお話がありましたけど、やっぱり様々な報道を見るとポテンシャルはあるので、必ずコロナが終息した後は、観光は戻ってくると思う。ただし、昔のような 300~400 人も泊まれるホテルのような大規模な施設よりは、10 人くらいが泊まれる宿泊施設の方がだいぶ受け入れが整ってくると思うし、様々な女性に対するスパ等企画をしてやってくると思う。その一般論は別として、さっき先生が言った「基本目標4 観光客の受け皿の倍増を目指そう」受け皿が結城にあるかと言ったら、なかなか難しい。マイクロツーリズムやローカルシティに向いていると話があり、私も同感するが、ただ、やっぱり斬新なものが欲しい。さっき事務局が言ったとんがったものが欲しい。

それって何なのって話になると、笠間市がスケートボード専用の施設を大々的に発表した。スケートボードもいつまで入るか分からないが、それくらい斬新なことをしないといけないならば、例えば結城市でも駐車場を 200~300 台用意したドッグランとか、結城がキャンプが向いていると思うのは、ソロキャンプの聖地とするぐらい、結城ガーデンの下の農地をきれいに芝生にして、筑波山から見える朝日を見にソロキャンプに行くのだと、そのくらいのことを考えて、選択と集中で予算を取ってもらって、そういう発想でやるのが良いと思います。多少、反対はあるでしょうが、それぐらいとんがった政策をやっていかないと、1714 もある自治体でどうやって勝ち抜くかといったときに、なかなか勝てないのではないかなと思う。

小笠原委員長：ぜひ事務局でも参考にしてもらいたいですし、今の話が面白いのはどう勝ち抜くのかを意識すること。おそらく、今日ここで話をするのは日本中の自治体で議論している。そうするとどうやって観光の環境整備をしていくのかと話になっていく。どこも同じ話をしていっても、差別化にならない。なにをしていくのか、さらにいうと、今の流行りは大きなものを作らない。小さなもの、あるいは今あるものを使ってという中で考えていく。例えばそういうところで役所の予算を取っていくと並行して、民間事業者がどれくらい出てくるのか、ということが今の主流となっている。そのあたりのことも皆さんからご意見をちょうだいできればと思います。

大嶋委員：観光ボランティアガイド協会の大嶋です。まず2点、お礼を申し上げます。以前からパンフレットが貧弱であることを常々申し上げたところ、この度予算をたくさん取っていただいて、大変結城の魅力を網羅したすばらしいパンフレットを作成してくださる予定ですので、その事に関して感謝申し上げます。それと、実際ガイドとして街中を案内してまして、お越しになるのが70代の方がほとんどでしたので休憩する場所が無いと言われてまして、この度木製ベンチが北部市街地の所々に置かれまして、気軽に皆さんが休めるようになりました。そのことは私たち案内していて心強いです。トイレの問題と、ちょっと休みたいという要望が多いので、その2点をお礼申し上げたいです。

それから2点質問がある。1点目は分からなかったことで、実施事業の検証で「基本目標4 観光客の受け皿の倍増を目指そう」の短評で「受け皿面でも市内保守層への意識改革浸透を図るも苦戦。」とありますが、文言が抽象的過ぎて具体的に教えてもらいたい。2点目は新しい観光パンフレットの伝統工芸マップの体験マップに1～8まで番号があるが、「手作り工房「里」」の番号が入っていないことと写真が無いこと、どうしてなのか。

ボランティアガイドとして提案したいことが2点あります。提案というかお知らせだが、一つ目は先月まで結城廃寺の保存活用計画についてパブリックコメントがあったが、それに間に合わなかったが、メールでこうした方がよいとお伝えした。今、このパンフレットを見たりお話を聞いたりした内容はほとんど北部市街地のことだが、結城の南は「基本目標3 観光客の滞在時間(単価)の倍増を目指そう」の「事業例 13 南部エリアの観光環境整備」とある。結城廃寺は国宝級の遺跡も発見されていますし、この度土地を購入したそうです。広い敷地が確保されていますし、話が戻るが結城に資料館がないのがすごく残念なことで、これだけ歴史・文化があっというんな遺産を持っている都市なのに、それをまとめてきちんと展示できる資料館が無いのは市民として恥ずかしいことですし、万が一火災などに遭ってしまうと、大切な資料が紛失してしまうことはすごく残念なことなので、ぜひ立派でなくても資料館を作ってほしい願いがある。その場所は結城廃寺の跡地は霊峰筑波山が見えること、物流の運搬の要衝だった河岸があって、香取神社もあり、道標も所々にある。昔の交通も想像できるし、東持寺に武家屋敷があって私たちはそういう生活をしていたことをイメージできる、地形的にもすごく良いところなので、もしそこに資料館を作っただけなら、駐車場も確保できるし、大型バスが各方面から来てもらえるし、結城市を観光してもらえる魅力がある。これに力を入れてもらいたい。

あと一つはPRですが、私たち3年目になるが「結城の碑」という本を出版する作業を続け

ている。それは、結城市史を編集した元高校教員の須藤和利先生が会長で、30年以上結城市民のある方が、石碑を集めてくれていた。碑はどんどん劣化・腐食して読み取れなくなってしまう。この前の大震災で崩れ落ちてしまったのもたくさんある。震災前に文章とか写真とかを一冊の本にまとめる作業が進んでいて、間もなく完成するので、結城の観光のPRに活用してもらいたいため紹介させていただきました。

小笠原委員長：質問が2点、出ましたので、そちらの回答をお願いします。

事務局：短評についてはわざと抽象的に書いたつもりで、どういったことを訴えたかったのか申し上げますと、どうしても結城という街は現代に至るまで、結城の街中で産業の循環が完結していた街だろうと思っている。そうすると、これからパイが少なくなっていく中、人口が減少していく中で、外からの外貨、観光客を呼び込むことが必要であると考えているが、それが中々、まだまだ既存の得意先だけの商売だけ、そういうことを行っているのもあるのかなと思って、こういう書き方をした。

質問の2つ目、パンフレットの番号が無いのは、紹介するのに番号を振っていたが、「手作り工房「里」」は紹介する取材をしていないが、前回のパンフレットでも体験できる場所と記載していたので、赤丸は体験できるが記事が載っていないとご理解いただきたい。

大嶋委員：ありがとうございました。

石島委員：結城信用金庫の石島です。結城市の商業観光の振興を推進する中では、当然目玉となるイベントや施設、また観光資源を充実させることはすごく大切なことだと思います。また、一時的にでも観光客が来るわけですけど、観光客をおもてなす準備も必要です。しかし、一番大切だと思うのが、結城市を認知してもらう、知ってもらう、興味を持ってもらうことじゃないかって思います。結城市のホームページで観光情報を見てみても、公共施設のご案内ぐらいで終わってますし、もっと飲食店や結城紬などに関連するものを充実して載せてもらいたい。また、一部の人には「御手杵の槍」が大変有名みたいですし、それに関連する市町村もあるかと思っていますので、その市町村との連携を図ったイベントをやったりするご案内をするのも手じゃないかなと思います。

前回の委員会の中で「企業版ふるさと納税を利用した創業支援、地域活性化」についてお話ししたが、無事に採択されまして、令和3年度から空き家の活用や新規創業者の支援のところを結城市と一緒に3年をかけて事業に取り組むことになっている。そういった中で、令和3年度に信金中金、信用金庫の上位機関でプラットフォームの立ち上げが予定されていて、それに当金庫も参加していく中で、結城市を知ってもらうための情報を上げていくのと、結城市で創業したいという方の認知を図ることを検討している。そういった中で、商工会議所や市で創業にかかわるような例えば創業支援のセミナー等、そういうものがあればリンクで入っていった情報を提供してあげられるようなことをこれから取り組んでいきたい。そのプラットフォームの中には当金庫や市役所だけではなく、日本政策金融公庫や創業に関わるサイトから結城市を知ってもらえるような形になるそうなので、市等にもお願いに行くこともある。そういうところでやっていけたらいいのかなと思う。

保坂委員:コロナ禍でもの凄い予期せぬことが起こっているのです、商業観光振興計画で委員長や役所の職員がとても苦勞していると思う。今まではどのように人を集めよう、どうやって目立たせるかを考えて、人が来ることはいいことだったのが、人が来るのが危なくなつて、インバウンドの外国人も安倍首相の時は3,000万人、4,000万人入れようとしていたのが、パタッと飛行機が飛ばなくなつてしまつて、どうするのか。好材料は、これからはワクチンが出てどれくらい行き渡つて、私の知っている数字では全体の人口の70%が抗体を保有すれば、その地域で収まていく。そこまでの時間はどれくらいかかるのか全く分からない中で、先ほど先生が言っていたように、今この様な場で全国の市町村が同じようなことを考えている。その中で私が一番大切なのは、大きなグランドデザインがなにか、観光事業にしても、やることは素晴らしいこと。しかし今、時代は2050年カーボンオフセット、CO2をいかに減らそうとするのか、例えば電気自動車など全世界共通の話題で認識を持っている。近くでは、境町はいろいろな上物を著名な建築家に頼んで、予算を持ってきて、建物をたくさん建てたり、町内に無人の電気バスを走らせたり非常に脚光を浴びている。もちろん結城も日産が近くにあるため、いろいろな技術を無人のバスに積極的に取り入れて、共同開発で走らせるとか、色んな地の利を生かした「グリーン」を共通ワードに持ってくると、色々できると思う。

もう一つ、結城は前から海無い、山無い、温泉も無い、何にも無いけれども、歴史はある、お寺がある、紬がある。海山が無い分、台風とか気候変動が大きくなった時に、海も無いし、崩れる山も無い、地震の時でも多少建物が崩れるにしても、ものすごく地盤が安定しており、災害が少ない。それはこれからスモールシティや東京の本社から地方へ、またリモートワークを推奨し、結城からなら東京はすぐに行けるし、在宅できて危険も無くて安心ですよと、環境的な安全も、多少ウリに出したりする。グリーンと環境、その環境の中に田舎なので、10年前からヨーロッパでやっているが、自分たちで出したCO2を自分たちの地域で処理しよう、CO2を処理するのは植物なので、植物をいっぱい植えることで、自分たちの排気ガス、電気エネルギーのCO2を結城の5万人の街で使っている分を植物で固定化させるならば、これだけの植物、稲なり白菜なり、植物が共生できると非常にプラスマイナスゼロ、もうちょっと欲張れば結城に来ると酸素がいっぱい出ていると、それくらいチャレンジできるとよい。その地域で出たものはその地域で固定化できるように、チャレンジしてもよいと思う。環境的なものとグリーンを意識すると、コロナ禍でいつ世界中から来るか分からないが、非常に日本の中でも結城の取り組みが話題になり、その下にお寺・紬・おいしい食べ物がくる。大きなグランドデザインを、観光の何に焦点を当てるのか非常に難しいと、私も思っていた。

小笠原委員長:ありがとうございます。今の話は「基本目標1の事業例14 滞在型農業体験プログラムの検討」で実現可能だと伺っていた。他の町で、最先端のプログラムを使いこなすのがうまいという一方で、結城はどうするのかというときに、例えば農業の観点で言うと、地元のJAや農家の方々が、逆に問う形で、農業で無くこういう話でグリーンツーリズムで稼ぐ事業に乗ってくる方いますか、そういう話になってくる。今回の話で市役所頑張った、市民はどうする、となった話になってくる。例えば地元のJAや農家が1件でも2件でも外国から来るお客さん、または日本の中で一週間滞在して農業体験やってみたい方と事業してい

く気持ちが出てくると、この話は大変面白い、となってくる。単に消費型のツーリズムではなく、これからが体験型がメインになってくる、農業を学ぶ、排出について学ぶ、もっと言うと農家の方で学んでくる方がいると大変強い、となってくる。このような話が農家の方から出てくると、もっと面白いと感じる。

飯島副委員長：今年度の最終ということで、事務局からまとめが出てきました。また、来年度の予算を獲得していくため、どんな事業が良いかということも見出していかなくてはならない。まず、遠い未来を考えていくことも必要だが、足元を見て一番直近でなにができるのかと考えたときに、先日も野口氏たちのおかげでジェラート、その前はコッペパンが出店、結城の街中に新しいお店が徐々に増えている中で、もっとこの辺を力を入れて推し進めていくのが、足元を見て進め行くのがもっと面白いのかなと思いました。新規出店で 100 万円の助成金が出るといった話もありますし、石島氏からも話が合ったように金融機関でも話が進んでいるのがあるわけですから、もっと力を入れて北部市街地の空き店舗の活性化を図るに力を入れたり、あと一つ言っていた上山川の結城廃寺、国宝級の遺跡があることも忘れてはいけないし、最初の議題に出ていた観光客の稼ぎ頭である山川不動尊ももっと力を入れて進めていくと、毎月2万人が3万人に増えれば、もっと面白くなる。

小笠原委員長：ありがとうございます。今あるものでできることがたくさんあるということですね。

柴委員：結城つむぎセンターで和風レストランとお土産のお店を運営しています。ちょうど山川不動尊の話が出たところで、先日 2 月 28 日が山川不動尊の縁日でいろんなところから参拝に来ていて、うちのレストランも普段はそんなにお客さんが多い方ではないが、28 日が日曜日に当たると蕎麦を食べに来てくれるお客さんが多くなる。今、コロナ禍で特にお客さんが少ない状況でも、先日の 28 日はお客様がいつもの約3倍ほど来てくれた。色々話を伺うと、山川不動尊に来て駐車場が少ないとか、不動尊から無料バスで結城の街中へ連れて行って欲しいというような意見があった。これから結城朝光が話題になってくると思うので、不動尊と朝光公のお墓が近いのも合わせて攻めてみるのも面白い。

昨日 3 月 3 日の日経新聞に「草加せんべいと獨協大」で獨協大の学生が地元の煎餅会社と割れせんべいのコラボ商品を開発した。「海の香ばしさ持ってきました」、「磯の香りが鼻を抜けた瞬間」等、奇抜なネーミングを付け、若者の目を引きやすいように7つのパッケージを用意した。高安経済学部教授のゼミ生7名が参画した、ゼミのテーマは開発経済学、と書いてある。若者にアプローチした草加せんべいを自分たちで考えることで、製造過程で一定の割合で発生する割れせんべいを有効活用、学生が色々なアイデアを出して、地元の企業がそれを取り入れて、商品として発売された。割れせんべい2枚入り価格は 200 円、店頭やネットでの販売の他、草加駅近くの屋外スペースでも販売したことがある。販促は若者を意識して写真共有アプリのインスタグラムを活用している。若い視点から商品を色んなところに拡散しており、そういう技法を取り入れながらやっていることが掲載されていたこととお話しさせていただいた。

小笠原委員長:ありがとうございます。寺社仏閣の観光は基本中の基本でして、その点では結城は色々な可能性があるともみている。ちょうどこのタイミングが良いと思いますが、来年大河ドラマで出る結城朝光が使われる。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、ネット上で面白おかしく戦国武将を名乗るアカウントがSNSによくありまして、今見ていると委員さんは誰も頷かずに、後ろの学生3人が頷いているのが面白い。折々の歴史の立役者があるニュースや文化事業が始まると自分がやったかのようにつぶやいていく、結果的に武将の名前が世に広まっていく。結城市として今のうちから「結城朝光」のアカウントを取っておくのがよい。1年前からやっっていく、この話をバカバカしいと思うのも十分理解できるのですが、今新しい大河ドラマを見た方がいると思いますが、オープニングはどうなっていますか。「こんばんは、徳川家康です。」で始まるという、今実はツイッターで「こんばんは、徳川家康です。」とドラマが始まると数千人の人が一斉に「こんばんは、徳川家康です。」とつぶやく。一般の方にはおふざけに見える、そうやって親しんでもらうのが、今のネットカルチャーが熱いなど、そうすると来年くらいから、「こんばんは、結城朝光です。」というアカウントを結城市が運営しても全くおかしくないぐらいのフランクさを持ってぜひやってもらいたい。プラス、そういうカルチャーと寺社仏閣が繋がっていくと大変面白い結果が出てくると思っています。

外山委員:結城紬を活用した観光客誘致としてすぐに取り掛かれる事業として、結城に来てくれた人が結城紬って何を原料に、どうできるのか、といった疑問を思うのを、結城の街を歩いていても道具とか目につかないので、空いている店舗を利用して、つくし等を展示して、すぐに見えるところで、繭をどのようにして糸にするのか等、観光客が疑問を感じたことを実際の工程で見られるように道具一台を何か所も置いてあると気軽に見られる。このマップにあるとおり体験できるところが何か所もありますので、中に入って実際に体験してもらえ。また、技術を極めるには伝統工芸館に来ると文化財の技術は身をもって体験できる。その文化財の技術は時間もかかるので本格的にやりたい人は滞在型で泊まってもらって数日間やってもらってもいい。そういう取り組みはすぐにできるのではないか。北部市街地の住民の意識改革、理解が必要になるが徐々に働きかけをして、理解してもらい、空いている場所を活用できればよい。そういう動きが必要かと思う。結城紬の魅力、最近では取材も多い。今月末に NHK-BS「美の壺」の取材・撮影が入っており、5月に放送予定です。BS の番組の取材が2つ入っている。一つはコロナ禍なので、延長になっているが、もう一つはすぐに撮影に入る。そういう魅力をいかに発信していくか、そのことを課題として、今後取り組んでいければよい。それには皆さんの協力も必要と思っている。

小笠原委員長:ありがとうございます。私もさきほど拝見しましたが、この体験マップが多くの人の目に触れていくと、体験のところに繋がっていくことになる。これはインターネット上でも公開されるということによろしいですか。

事務局:公開できるよう考えております。

小笠原委員長:たぶんですが、多くの方がインターネット上で「結城市」をキーワードに検索して、結城の観光マップがあるかしらと見てくる。私の大学でも、大学のパンフレットについて

学生は紙で見ない。ほとんどインターネットで見てくるため、ネットで見ることを前提で作成している。ぜひ、マップを公開してもらいたい。

飯野委員：結いプロジェクトでは結城市の地域資源を最大限に活用した「結い市」や「結いの音」のイベントを手掛けていた。そんな中で話に出たジェラート屋さんが街中に出店したいとあたり、その他にも出店や移住も含めて相談の話が増えている。そういった小さいけれども確実な芽の部分にちゃんと着地できるような運営ができれば、上手く人も連携できれば良いと思う。そんな中でシェアオフィス yuinowa の蔵を改修してサウナを作るプロジェクトが進んでいまして、順調にいけば今年の春にオープンするよう動いている。これは僕たちより一世代若い若者たちが結城に移り住んで実際に結城の魅力を感じて、僕たちと繋がりながらサウナをやってみたいとチャレンジをやっていくという動きもでているので、サウナは地方創生と相性がよいので、サウナ後の街歩きや結城でご飯を食べてもらえるような観光拠点になっていくのではないかと思っている。絶賛、クラウドファンディングに挑戦中ですので皆さん興味ある方は見ていただいて、応援してもらいたい。よろしくお願いいたします。

小笠原委員長：ありがとうございます。ジェラート、yuinowa にサウナ、エキサイティングです。全国的にサウナは大ブーム。今までにないところにサウナができる。地方移住からサウナ、早い方で良い事例。人の集う場所、新しい展開、街中をホテルや結婚式場として活用できれば、最先端の事例になるでしょう。

野口委員：観光資源は作るのではなく、磨く。体験施設を作って育てる。街の新たな発見や感動をテーマに古民家、宿泊施設と体験を連動させ、ファンを獲得したい。若い人にSNSを活用した繋がりから声を拾い、さらに街中の観光資源を磨いていきたい。

小笠原委員長：結城はもっとできる。クリエイティブな街。外から取り組みが見える。Youtube、コンテンツが増えている。前から言っているようにSNSが弱点。克服できるので頑張ってください。

稲葉委員：巡回バスが土曜日も運行になったが、これまでどおりで観光と連動していない。食事してもらったり、例えば白菜とレタスの収穫を体験してもらい、街でも体験してもらい、半日1日でやってみる。以前やったことがあるが、楽しんで帰ってもらった。稼げる観光だと駐車場が無いといけないだろう。

小笠原委員長：委員の皆さまに色々なご意見をいただき、前向きに稼げる観光を検討してもらえる機会となった。今日のところはこれで議事を終了するが、各分野において出されたアイデアを活用いただきたい。

6 閉会